

〔一〕 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えよ。解答番号は〔一〕の □ 1 から □ 13 までとする。

コロナ禍の下で、大学も困難を強いられているのはご存じの通りです。コロナウイルスの感染拡大が本格化したあと、どの大学も矢継ぎ早にヘイサされ、オンラインでの授業実施に慌ただしく舵かじを切りました。この半年の間、キャンパスには人影をほとんど見ることができません。私も毎日パソコンの前に座り、ネット越しに授業を行うのが日常になりました。

気の毒なのは1年生です。ようやく入学した大学にまだ足も踏み入れていない1年生も多く、膨大な課題をパソコンでこなすばかりの毎日に不満の声も多く聞かれます。小中学校や高校が通常の授業を再開しているのに、大学はなぜ遠隔授業が中心なのか、という疑問もきかれるようになつてきました。

その一方で、感染者のクラスターが発生した大学は社会から激しいバッシングにさらされています。3月には京都のある大学で多数の感染者が出現し、大学に多数の抗議が寄せられました。8月には奈良の大学でクラスターが発生したことと、無関係のトウガイ大学の学生がアルバイト先から解雇されるなど、人権シンガイともいえる事件すら生じています。

大学は □ 6 □ に陥っています。オンラインだけで授業を行つても不満が出るし、かといって通常授業を再開すれば感染者の増大は避けられない。この □ 6 □ はすぐに解消されるとは思えません。しばらくの間、もしかしたら数年単位で、大学は遠隔授業を基本にしたかたちでしか活動できないかもしれません。

こういった「未知の事態」に際して、どのように適切に振る舞い対処すべきかを考えることは、本来大学に、あるいはより広く「知」を求められていることなのだろうと思われます。しかし、現在の大学がそれに応えられているようにはとても思えます。むしろ逆に大学は、社会からのバッシングに怯おびえ、学生からの突き上げに苦悩し、右往左往しているように見えます。

それはなぜか。

おそらく、「大学」というもののへの社会からの期待が変わつてしまつたからです。大学は社会をリードする知を生み出すことよりもむしろ、キソンの知識を効率的に学生に植え付けることを期待されるようになつてきた。その帰結が、未知の状況の

中で社会の声に右往左往する大学の姿です。

ここ数十年、大学は「学生にしっかりと勉強させること」に取り組んできました。いえ、正確にいうならば、政府や社会の「②学生にしっかりと勉強をさせているエビデンスを見せなさい」という要請に従つてきた、と表現する方が適切かもしません。

1980年代、といえば現在政策を決定している政治家や官僚が大学生だった頃ですが、「大学のレジャーランド化」が批判されていました。今では信じられないことですが、当時の学生たちは口々に勉強せず、アルバイトやサークル活動を謳歌おうかし遊んでいるばかりだ、とマスメディアはしばしば報じました。

政府は90年代以降、大学を大きく「改革」していきます。それまで事細かに規制されていた（けれども厳格には守られていなかつた）教育カリキュラムを、各大学がある程度自主的に決定できるようにする一方、カリキュラムやシラバスをきつちりと整備させ、授業内容を詳細に定めることを求めました。そして、事前に定められた通りに授業を提供するよう、大学に求めたのです。つまり、大学を「学生に勉強させるための場所」として徹底しようとした、と言えるでしょう。

そのような「改革」の実施によって何が起きたか。2010年代に明らかになってきたのは、日本の大学の教育研究水準の停滞です。国際的な大学ランキングは著しく低下しましたし、大学生の学力低下への批判はやむことがありません。すなわち政府による「大学は明示したカリキュラム通りに勉強させるところであるべきだ」という「改革」は逆効果だった、といつていいでしょう。

なぜそのようなことが起こるのでしょうか。学生をカリキュラム通りに「きつちりと勉強させる」仕組みを強化すれば、学生の学力は向上するように思えます。それなのにむしろ大学の教育や研究能力は低下してしまった。その背景にはわれわれの社会の「知」というものの捉え方の変化が横たわっているように思えるのです。

別の角度から考えてみましょう。

「コンテンツ」という言葉があります。音楽や映画といったエンタテインメント表現を指して使われることが多い言葉です

が、書物や放送番組、インターネットで見聞きすることができるさまざまな情報も指しますし、最近では大学の講義でさえ「コンテンツ」と呼ばれることが少なくありません。大雑把にいえば「情報のひとまとまり」くらいの意味で広く使われる言葉です。

コンテンツという言葉が日本語に定着したのはさほど古いことではありません。新聞記事データベースなどで調べてみると、「コンテンツ」は、90年代なかば頃に日本語の空間の中に急浮上してきた言葉だとわかります。それまでの「作品」や「楽曲」、「番組内容」といった言葉をひとまとめに塗り替えるように「コンテンツ」という言葉は流布しました。

言葉の変化とは、単に「同じものを違う言葉で指すようになった」ことではありません。一つの、あるいは複数の言葉が別の言葉にとってかわられるとき、その背景には社会の

10

が横たわっています。言葉の変化は社会の変化です。

④ コンテンツという言葉の浮上は、社会における文化や知識をとらえる枠組みの変化を示しています。それをもたらした要因の一つはインターネットの社会への普及でしょう。1995年はWindows 95が発売され、パソコンからのネット接続が容易になった年です。インターネットは異なった種類の多様な表現や知識をデジタルデータという共通の状態に還元することで、情報の流通を著しく便利にしました。かつては別々のメディアによって支えられ、各々異なるかたちでわれわれの思考や感性を形作っていたさまざまな知識や文化表現は、90年代なかばを境としてデジタルデータのかたちで一括して扱われ、消費される傾向が進んでいくことになります。

「コンテンツ」という概念は、知識や表現の質的な違いよりも、それが「ひとかたまり」の情報として同等に扱えることを強調します。書物と放送番組が同じく「コンテンツ」であると名指されるようになると、それを評価する観点もまた似通ってきます。かつては、書物とテレビ番組は別のメディア、別の世界、別の価値基準に属するものでした。テレビ番組であればそれは速報性によつて評価され、書物であればそれが人間の知性にどのように深い影響を与えるかにより評価されました。

しかし「コンテンツ」として同一のスマートフォンで視聴される対象になれば、その区別はユウカイしていきます。「面白いか」「泣けるか」「笑えるか」。あるいは送り手にとっては、そのコンテンツがどれだけ「売れるか」。異なるメディアに隔て

られ、異なる基準により評価されていた知識や情報や表現は、今や横並びに測られるようになりました。

かつては、知識とはそれとの長い格闘の末に身につけるものでした。それが「コンテンツ」と呼ばれるようになつてから、教育の在り方も変化したように感じます。何かのために必要な知識は、どこかに「コンテンツ」として存在しており、必要ならそれを見つけて「アクセス」しさえすればいい、という感覚が、学生や社会に浸透したように感じます。

先に触れた、「カリキュラム通りに学生をしつかり勉強させる」ことを目指した大学「改革」の背景にあつた考え方は、私の考えでは、知識や能力を「コンテンツ」としてとらえる考え方です。学費を払った分に見合うだけの知識や能力が得られる場として、つまり、「知」を商品のように取引するような場へと大学は変化させられてきました。

しかし、大学教育は「コンテンツをインストールする」こととは本質的には異なります。皮肉なことに、コロナ禍によつて大学に通えなくなり、「オンライン授業はうんざりだ」「早く大学を再開してくれ」と声をあげる学生たちこそが、そのことに気づきつつあるのかもしれません。

教育内容＝コンテンツが、オンライン授業のかたちで学生に伝達されている現在の大学の状況は、いわば（政府が、あるいは社会が理想とした）「勉強に純化された大学」です。授業と授業の間の移動時間や、友人との雑談や、サークル活動などといつた「勉学と直接関係ない」要素をすべて排除した、純化された「知識コンテンツのインストール」に多くの人々が不満を漏らしている。この事実は、勉強以外の無駄なことがむしろ大学の本質であったことを示しているのではないでしょうか。<sup>⑤</sup> いえ、もっと強く言いましょう。「大学は勉強するところではない」のです。

大学とは「学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探求して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する」（教育基本法第7条）と定められている制度です。「新たな知見を創造し」というところがポイントです。大学とは「まだ存在しない知」を生み出すことこそがその存在根拠なのです。つまり大学とは、知識を商品のように学生に売るところではありません。また、知識を持った「人材」を育成して企業に送

り出すためのところでもない。そうではなく、大学とは、一人一人の学生の知的成長を促すための場所や機会を提供することで、社会にとつて必要な知を維持し、そこから新しい知を生産するための場です。

それはハードディスクにソフトウェアをインストールすることよりも、公園で子供たちが創意工夫して遊んでいる状況に似ています（教員や図書館は「ジャングルジム」のような遊具に似ています。その「使い方」に定まった決まりはありません）。「知」とはデジタルデータではなく、身体と感情を持った人間一人一人が身につけ、実践し、対話し、試行錯誤する中でしか「役立たない」。大学とはそのために用意された場です。新型コロナウイルスが社会にもたらした「良い影響」がもしかしたらするならば、ただオンラインで勉強だけすることが「大学の学び」ではない、ということに人々が気づいたことではないでしょうか。

コロナ禍がわれわれに教えたことは、このような経験したことのない難局に対するために必要な知とは、すでに誰かによって形作られパッケージされている「コンテンツ」ではありえない、という簡明な事実です。<sup>⑥</sup>われわれはメディアで発言する専門家の意見の「食い違い」を日常的に目にしています。ある専門家は「PCR検査を拡大すべきだ」と主張し、別の専門家は「無闇な検査は控えるべきだ」と言う。あちらの専門家は「いち早く都市をロックダウンすべきだ」と言い、こちらの専門家は「経済への悪影響を考えるべきだ」と言う。

われわれはこのコロナ禍を解決してくれる解決策がどこにあるはずだ、と信じたい。しかしそんなものは「まだ」どこにもない。コロナ禍を乗り越える知見はコンテンツとしては「まだ」存在していないのです。それは身銭を切って必死に考え、調査し、研究している「誰か」がこれから生み出す「かもしれない」ものです。それを担うのが「知」の仕事であり、大学の仕事なのです。

コロナ禍に限りません。何であれ「問題を解決すること」の確かな道筋は、どこかの誰かが出来合いの答えとして示してくれるわけではありません。それは最終的には、自分の知性をもとに、自分の責任と判断で、自分自身で選び取っていくしかなっています。

(増田聰「『大学の学び』とは何か」——『ポストコロナ期を生きるきみたちへ』所収——による。ただし、小見出しを省略した)

問一 二重傍線部(a)～(e)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各項の中からそれぞれ選び、その番号をマークせよ。

- |    |            |    |           |
|----|------------|----|-----------|
| 1  | サジヨウの樓閣    | 2  | サベツに反対    |
| 2  | 江戸のサコク政策   | 3  | 仕分けサギョウ   |
| 3  | ダンガイ裁判     | 4  | 悪政にフンガイする |
| 4  | ガイハクな知識を誇る | 5  | ガイジュウ被害   |
| 5  | 敵のシンコウ     | 6  | シンコクな影響   |
| 6  | 公平なシンサ     | 7  | 税金のシンコク   |
| 7  | 法のキセイ      | 8  | キセイ虫の駆除   |
| 8  | キセイをそがれる   | 9  | 大量生産のキセイ品 |
| 9  | ユウモウ果敢     | 10 | 深山ユウコク    |
| 10 | 万博をユウチする   | 11 | 核ユウゴウ     |

問二 空欄 6 (二箇所ある)に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 スランプ      2 トラブル      3 ジレンマ      4 フリーズ

問三 傍線部①の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 大学は新たな知見を創造する独創的な学生を育てる場であるべきだと求められ始めた
- 2 大学は授業料に見合う即効性のある知識を提供する場になるべきだとみなされ始めた
- 3 大学は高等教育よりも生活に役立つ便利な知恵を与える場と考えられるようになった
- 4 大学は社会からのバッティングや学生からの突き上げを教育より重視する存在になった

問四 傍線部②の具体例として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 大学の講義を受けた学生がどれだけ一流の企業に就職したのかその数を示すことを求める
- 2 講義の理解度を測るためのテストが実施されたことを文部科学省に報告するように求める
- 3 学生がアルバイトやサークル活動に費やす時間を調査し適切な指導を続けるように求める
- 4 カリキュラムやシラバスを整えた上でそこに提示した内容通りに授業を行うことを求める

問五 傍線部③の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

9

- 1 大学を知識獲得の場とする政府主導の「改革」はかえって学生の知識量の一層の低下を招いてしまった
- 2 大学を知識獲得の場とする政府主導の「改革」は残念ではあるが一定程度の成果しか上げられなかつた
- 3 政府の推進したカリキュラム通りの勉強という「改革」は皮肉なことに制度設計自体の欠陥を露呈した
- 4 政府の推進したカリキュラム通りの勉強という「改革」はむしろ大学生の勉強意欲をそぐ結果となつた

問六 空欄 10 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 「産業構造」の変化    2 「生活リズム」の変化

- 3 「人間関係」の変化    4 「ものの見方」の変化

問七 傍線部④の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 異なる種類の知識や情報を混乱なく流通させるために同一の言葉によって表現する必要が生じたから  
2 90年代のインターネット普及によつてネット接続が容易になり情報の流通が著しく便利になつたから  
3 別の価値基準に属する多様な知識や表現がデジタルデータとして一括して扱われるようになったから  
4 インターネットの社会への普及に伴う社会構造の変化が同じものを違う言葉で表すことを求めたから

問八 傍線部⑤はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 12 大学では知識の習得に限らぬ様々な経験こそが「新しい知」を生む土壤になるということ  
1 大学での勉強よりアルバイトやサークル活動に注力するのが真の学生ライフだということ  
2 大学では授業も大切だがアルバイトやサークル活動の方が社会人の予習になるということ  
3 大学の学問は無駄に思えたとしても真剣に取り組めば「新しい知」に結びつくということ

問九 傍線部⑥の説明として、最も適切なものを次のの中から選び、その番号をマークせよ。

13

1 机上の空論に留まることなく、コロナ禍のような難局に際して有効な解決策を提示するのが本当に必要な「知」の仕事である

2 未だ答えの存在しない問題に向き合い、対話や試行錯誤を重ねながら新たな知見を創造することこそ真の「知」の仕事である

3 すでにパッケージ化された知識ではなく、多様な専門家の意見を傾聴して解決策を探ることがコロナ禍で必要な「知」である

4 未経験の難局に対してもオンラインのコンテンツに頼ることなく、個々の実践を通して知識を得ることこそ本当の「知」である

〔二〕 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えよ。解答番号は〔一〕の □ 1 から □ 8 までとする。

かやうに御かたらひのうへ、ごんのかみ、ひめ君寵愛申さるる事世に又類ひもなかりけり。春は春、秋は秋とて、吉野立田の花もみじを移し植ゑて眺め給ふ。（中略）ある時、ごんのかみ、ひめ君の御側近う参られつつ申されけるは、我、かやうの御かたらひ申す事も清水の御利生にて侍り。其ころの宿願にて候へば、しばしの御いとまを給はり候へ。清水へこそ参詣申しあはん。あひ構へてこの御座敷の他へ御出あるまじく候ふよしを、くれぐれ申しおきてぞ出られける。

ひめ君、侍従の局を召してのたまひけるは、「このほどここもとの有様見侍りけるに、世の常の人のたたずみとは見え侍らず。われはただいかなる魔縁不淨にも誘ひ出され、畜生道にも落ち入ぬるかと、浅ましくこそ候へ。ことに殿の御言の葉の末、あやしく候へば、障子の隙より、下々の模様覗きて見侍り候はん」とて、侍従をともなひ、立ぎき給ひけり。

ひめ君、侍従の局に向かひつつ、のたまひけるは、「こはいかにあやしく思ひし心のごとく、畜生道に落ちぬる事の浅まさの隙、さては築地の崩れ目より通ひ給へり。もし、ねずみにてや候はん。罠をかけて見侍らん」とて、ひめ君の手なれ給ひし琴の緒を、□ 3 □ に結びつつ、掛け置き給へば、ごんのかみ、有無の極めにやありけん。程もなくこの繩にかかりにけり。さて、「ちつ」といふ声ばかりにて、すでにあやふく見え給ひける。「左近の尉はなきか。罠にかかりたるぞよ。その人の御覽ぜぬ先に、外し候へ」とばかりたえ入りける所に、左近の尉、このよし聞きつけて、「あさましの御ありさまや。いかにいかに」とばかりにて、罠つぼに食ひつき、「いかなる鬼くるみをも噛みわらん」と、たしなみおきし左近の尉が前歯二つの噛みやうにて、やがて琴の緒を食ひきり、ひめ君はこの有様を見給ひて、取るものも取りあへず侍従の局を先に立てて、いくとも知らず、迷ひ出給ふ。（中略）やうやう歩み出でて見給へば、古塚の崩れより這ひ出給ふ。これにつけても、清水の觀音を恨み申て、

③さきだたぬくいの八千度かなしきは清水でらの利生なりけり

と、はかなき口づさみばかりにて、都をさし行給へば、後先も知らず、ただ水鳥の陸に惑へる心ちなんし給ふ。「このうへは、

ふるさとの望みもよしや思ひたえたり。とかく様変へて、後生菩提を願はん」とて、嵯峨の奥とやらん名ばかり聞き給ひて、そなたへこそ尋ねつゝ、歩み行き給ひけれ。

ごんのかみは、左近の尉に助けられ、くうくうとしてありけるが、ひめ君うせ給ひける事を悲しみ、明くれ涙にむせびけり。昔物語りに聞きおよびし、晴明のゆかりの末の人とやらんに、まさしき算の上手のありけるを、招き寄せて、ひめ君のうせ給ひける占ひをこそ頼まれけれ。ひめ君の御年は十七なり。ごんのかみの年は百余歳なり。(4) 占形に曰く、水剋火(すいこつか)と戦ふなり。(5) うせ給ひける御人、まづは此まま様変へて、いかなる山の奥へも向かんと、御心ざしありけるが、都にある人と御語らひ候て、いかなる穴のそこまでも、わりなく入りてねずみとり給ふ、笛吹きの猫の坊を飼ひ給ふなり。

(『鼠草紙』による。ただし、本文の一部を省略した)

問一 傍線部①の意味内容として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 私がこうしてあなたと会話できるようになったのも、清水寺での修行のおかげでございます
- 2 私がこのようになれたのも、清水寺からうけた恩恵のおかげでございます
- 3 私たちがこのような交流ができるのも、清水寺での商売の利益によるものでございます
- 4 私がこのように親しくお仕えすることも、清水寺での遊興がきっかけでございます

問二 傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2 1 悪靈に取りつかれて、畜生に変貌する呪いを受けてしまった

2 卑しい身分の者と結婚したことで、獣のような生活をせざるを得なくなつた

3 政争に巻き込まれて財産を失い、家畜の世話をする身分に落ちぶれてしまつた

4 得体の知れぬ魔物に魅入られ、六道輪廻における畜生の世界に落ちてしまつた

問三 空欄 3

に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3 1 ひとげなげ 2 おぼつかなげ 3 しどけなげ 4 せつなげ

問四 傍線部③の意味内容として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4 1 予見できない悔しさを八千回繰り返すのは悲しいことで、清水寺での生活がそのようにさせたのです

2 悔しさが幾度となく押し寄せてきて悲しくなるのは、清水寺の観音様が思わぬご利益を下さったことです

3 起きてしまつたことへの後悔を何度も悲しく思うのは、清水寺の観音様が下さつたご利益の賜物です

4 先立たれた後悔が幾度となく続き悲しいのは、清水寺の観音様がお与えになつた試練によるものでした

問五 傍線部④は何を示唆しているか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5 1 ごんのかみとひめ君の間における情熱的な恋愛関係

2 ごんのかみとひめ君の関係における根本的な不調和

3 ごんのかみとひめ君の周囲を取り巻く社会的な圧力

4 ごんのかみとひめ君の運命に対する自由意志の戦い

問六 傍線部⑤の人物についての説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 6 1 姿を変えて山奥に隠れ住み、仏道修行に専念している  
2 都に住んでいる人と親しく交際して夫婦になつてている  
3 都に戻つて、体験した昔の話をしながら暮らしている  
4 都で有名な猫を飼い、鼠捕りをして生計を立てている

問七 空欄

7

に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 仏の御結縁 2 比翼の御契り 3 心ざしのほど 4 悪行の因縁

問八

本文の内容と合致しないものを、次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 8 1 ごんのかみの不自然な行動が、正体についての疑念をひめ君に抱かせた  
2 ひめ君がしかけた罠にかかったごんのかみは、左近の尉に助けられた  
3 ひめ君は清水觀音を恨みつつ、都を出て、嵯峨の奥へ向かおうとした  
4 ごんのかみのもとを去つたひめ君は、都を去つて尼になり猫と暮らした

〔三〕 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えよ。解答番号は〔三〕の□1から□8までとする。

知識人であるフェミニスト作家が、自らの作品に、知識人フェミニストとサバルタンの女の対立を書き込むこと、それはサハル・ハリーフエの『ひまわり』だけの話ではない。エジプトの女性作家ナワール・エル＝サアダーウィー（一九三一年～）の小説『零度の女』(*imra'a inda nuqtat ṣif* 一九七三年) そして、モロッコのフェミニスト社会学者ファーティマ・メルニーシー（一九四〇年～）の自伝的フィクション『越境の夢』( *Dreams of Trespass* 一九九五年) についても同じことが指摘できる。そして『ひまわり』においては、ラティーフエがサアディー工とあいまみえるのは作品の最後、強制収用の取材に訪れたラティーフエがサアディー工に話しかけ、一蹴される場面だけであり、基本的に一人の物語が交わることなく作品が進行するのに対して、サアダーウィーの『零度の女』もメルニーシーの『越境の夢』も、フェミニスト作家とサバルタン女性の対立は作品の根幹により深く関わっている。

(中略)

① ファーティマ・メルニーシーの『越境の夢』(日本語版は『ハーレムの少女ファティマ——モロッコの古都フエズに生まれて』)は、日本語版のサブタイトルにもあるように、モロッコの古都フエズの名家メルニーシー家のハーレムで生まれ育つた著者が、その幼年時代を回想し、ハーレムに生きる女たちの日常を描いた自伝的フィクションである。作品にはメルニーシー家のハーレムで暮らすさまざまな親族の女たちが登場するが、女たちの人物造形や彼女たちにまつわるエピソードには、社会学者である著者がインタビューした何百人のモロッコの女たちの生が巧みに織り込まれて描かれている。自伝的「フィクション」たる所以である。

作品は、幼い少女ファティマの目線から、フランスの植民地支配に対する独立運動に揺れるフエズのハーレムで生きる女たちの姿を生き生きと描きだしていく。ハーレムの女たちは、確かにハーレムの境界を越えて自由に外出することはできないうれども、だからといって、決して家父長制の受動的な犠牲者というわけではなく、女同士、知恵を絞りあい、協力しあい、時

には男たちを出し抜いて、生きているのである。それは近代のフェミニズムが言う「抵抗」とは異なるかもしれないが、それもまた、まぎれもない女たちの「抵抗」にほかならないことを、そして、彼女たちのその抵抗の力を育んだのは、近代西洋のフェミニズムではなく、ハーレムにおける女たちの伝統文化であることが、著者の茶目つ氣あふれるユーモラスな筆致によって綴られる。

男たちによる女たちの支配の叙述はつねに、フランスによるモロッコの植民地支配の叙述へと繋がり、家父長制と同じように植民地主義もまたモロッコの女たちの自由を抑圧していることをテクストは強調する。フランスがモロッコに強いる植民地主義の境界線と、男たちが女に強いるジエンダーの境界線は、いずれも不条理なものであることを幼いファティマは女たちに教えられ、いつの日かそれらの境界を越えて広い世界へと羽ばたいていくことが、ハーレムの女たちから幼いファティマが託された未来の夢となる。そして事実、ファティマはアメリカに留学し、学位をとり、マグレブ・アラブ世界を代表する女性知識人として世界に飛翔することになる。

敢えて英語で、西洋の読者に向けて著されたこの作品は、ハーレムの女性たちの「抵抗」を生き生きと描くことで、家父長制の受動的な犠牲者という、西洋のフェミニズムにおけるムスリム女性についてのステレオタイプを是正する。同時に、アラブ・イスラーム社会の家父長制だけでなく西洋の植民地主義もまたモロッコの女たちを歴史的に抑圧するものであったことを、そして、モロッコの伝統文化のすべてが女性抑圧的なものとして全否定されるべきではないこと、むしろ、女たちの抵抗の力を涵養したのはハーレムの伝統であることを描き、アラブ女性の抑圧についての西洋人の一元的理解に修正を迫っている。

では、この作品で、フェミニスト知識人とサバルタンの女たちの対立はどのように描かれ、また、その対立はどのように脱構築されているのだろうか。

やがて高等教育を受け大学教授となり、英仏二言語を操り、知識人として活躍するファティマに対して、ハーレムに暮らす年上の女たちが、<sup>③</sup>世界を他者に対し表象する術を持たないサバルタンであることは間違いない。彼女たちの「抵抗」は、<sup>④</sup>フェミニスト知識人ファティマ・メルニーサーのまなざしによつて「抵抗」として分節されることで初めて、そのようなも

のとして表象されるのである。では、社会学者であるマルニーシーがモロッコのサバルタン女性たちの生を表象することは、  
※ フィルダウスを自らの権力資源としてその生を表象しようとした女性精神科医とどのように異なるのだろうか？

『越境の夢』はマルニーシーの幼年時代の物語だが、著者はそれを回想という形では書かずに、幼い少女ファティマを語り手に据えることで、少女の視線からすべてを描いている。少女はまだ、女であることが何を意味するのか、男であることが何を意味するのか、ハーレムとは何か、フランス軍がなぜモロッコにいるのか、何も知らない。世界について何も知らない幼いファティマに、女であることの痛みや悲しみ、この世の正義、不正義を教えるのは、ハーレムの女たちである。ルミヤがそうであるように、彼女たちは二人称の関係世界のなかであれば、目の前にいる「あなた」に向かって、自分自身の言葉で世界を語ることができるのである。ファティマは世界を理解しようと、女たちの語りに一心に耳を澄まし、自分が聞き取った言葉を語つていく。このとき、ハーレムの女たちの語りに耳を澄ます、まだ世界について何も知らない幼いファティマとは、言うなれば、自らが学び知ったことを忘れ去つて、サバルタン女性の語りに虚心に向き合う女性知識人の謂いにほかならない。

ハーレムの女たちの夢を託された幼いファティマがフェミニスト知識人ファティマ・マルニーシーになつたのだとすれば、マルニーシーのフェミニズムを育んだのは、彼女がフランス語や英語で書かれたフェミニズムの書物を紐解くはるか以前、フェズのハーレムで、ファティマが触れたこれらの女たちの語り、笑い、痛み、涙によつてであることを、そして、フェミニスト知識人となつた著者がモロッコの女たち、とりわけサバルタンの女たちについて語るのは、自分を育んでくれたハーレムの女たち、自らは世界を表象することのできない彼女たちへの

アラブのフェミニスト作家がサバルタン女性を小説において表象するとき、彼女たちが知識人女性とサバルタン女性の対立を作品に書き込むのは、スピヴァクがそうであつたように、第三世界のフェミニスト知識人として彼女たちが、フェミニズムの実践として何よりもサバルタンこそを表象する責務を負つていてことを自覚すると同時に、しかし、サバルタンを表象することがはらみもつ原則的な困難<sup>(6)</sup>について、とりわけ、サバルタンを決して代表できない自分たちがサバルタンをいかようにも表象し、それを自らの権力資源としうる特権性を熟知しているからにほかならない。だからこそ、フェミニスト作家たちは、

サバルタン女性が生きる生の現実について自分たち知識人が実は何も知らないのだという自らの無知を作品に書き込んでいるのだと言える。それがなければ、自分たちの作品がサバルタンの声をむしろ封殺するものとなり、フェミニズムを自ら裏切るものであることを彼女たちが知っているからである。だが、知識人として構築された自分が、体制の権威を分有した世界から、サバルタンの言葉が聴きとれる世界に越境してゆくことは、ファティマがハーレムから広い世界に越境することよりも、もし  
かしたらはるかに難しいことであるかもしれない。

(岡真理『アラブ、祈りとしての文学』による。ただし、本文の一部を省略した)

※フィルダウスを自らの権力資源としてその生を表象しようとした女性精神科医……「フィルダウス」も「女性精神科医」もサア

ダーウィー『零度の女』の登場人物

※ルミヤ……パレスチナ出身の映画監督ミシェル・クレイフィによるドキュメンタリー『豊穣な記憶』(一九八〇年)に登場するサ  
バルタン女性。同作ではルミヤと『ひまわり』の作者サハル・ハリーフエの二人が主人公として描かれる

※スピヴァク……インドに生まれアメリカを中心に活動する思想家、ガヤトリ・C・スピヴァク(一九四二年-)のこと。代表的著  
作に『サバルタンは語ることができるか』(一九八八年)がある

問一 傍線部①の説明として、適切でないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 今は社会学者となつた著者の幼年期についての回顧録である
- 2 メルニーシー家のハーレムで暮らす女たちが描写されている
- 3 植民地主義も家父長制とともに不条理なものとして語られる
- 4 モロッコというより西洋の読者に向けて著された作品である

1

問二 傍線部②の説明として、最も適切なものを次のの中から選び、その番号をマークせよ。

2

- 1 ムスリム女性はハーレムに押し込められて日常的に自己犠牲を強いられている
- 2 ムスリム女性はハーレムの伝統文化が体制への抵抗の力を育むと誤解している
- 3 ムスリム女性は理不尽に女性を抑圧する体制に抗うすべもなく支配されている
- 4 ムスリム女性は何事にも受身で植民地主義の歴史すら肯定的に受け入れている

問三 傍線部③はどういうことか。最も適切なものを次のの中から選び、その番号をマークせよ。

3

- 1 十分な教育を受けていないため外国に通じる言語で世界を論じることができない
- 2 ハーレムから自由に外出して他人と世界について語り合う機会に恵まれていない
- 3 相手に向けて持ち前の言葉で語れるほどに優れた世界観を持ち合わせてはいない
- 4 自分と場を共有しない者に通じる語り方で対象化した世界を語ることができない

問四 傍線部④はどういうことか。最も適切なものを次のの中から選び、その番号をマークせよ。

4

- 1 大学教授の肩書きを持つ女性知識人の手によりサバルタン女性の「抵抗」として学界に周知されるフェミニズムの知見に基づく洞察により一連の行為が「抵抗」という概念において価値づけられる
- 2 ハーレムで幼少期を過ごした社会学者の温かなまなざしを通して小説で「抵抗」として描写される
- 3 フェミニスト知識人の分析により近代西洋のフェミニズムにおける「抵抗」とは別物と分類される

問五 傍線部⑤の理由として、最も適切なものを次のの中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 自身の権力資源とする危険を回避しつつサバルタン女性の生を表象するには、著者が投影される語り手を無知な者に定位することが不可欠だったから

- 2 世界について何も知らない幼い少女の視点からハーレムを描写すれば、サバルタン女性たちの生をフイクションの中でドラマチックに描き出せるから

- 3 少女を通してサバルタン女性自身の言葉による語りを作品に映し出していけば、学術的に考察すべき困難な課題を分かりやすく社会に示せるから

- 4 自らの知識を捨ててサバルタン女性の語りに虚心坦懐に向き合い、女たちの生の表象を通じて体制による抑圧を広く告発する作品を書きたかったから

問六 空欄 6 に入る言葉として、最も適切なものを次のの中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 啓蒙の試み    2 追憶の表れ    3 応答の営み    4 賞賛の振る舞い

問七 傍線部⑥はどういうことか。最も適切なものを次のの中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 特権を持つ者による特権を持たない者の表象という倫理上の困難  
2 現実での実践と小説における表象との根元的な懸隔を埋める困難  
3 代表ではないからこそ対象の表象に過度の自由が生じるという困難  
4 自らの声によって語ることのできない存在について語ることの困難

問八

傍線部⑦の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 西洋諸国からモロッコのハーレムへの移動には、国境を越えるだけでは済まぬ多くの困難がつきまとつから
- 2 知識人としての自分を解体し権威を我が身から引きはがすのは、それらを手に入れるよりも難しいはずだから
- 3 幼少期を過ごした地に大人になつて戻ることは、子供が新たな世界へ飛び立つより難易度の高いものだから
- 4 体制の一翼を担つてしまつた反省もなくサバルタンの世界に行つたとしても、彼女たちを傷つけるだけだから

(以  
下  
余  
白)